



2011年6月9日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き上げについて

2011年6月8日（現地）、ブラジル中央銀行は COPOM（定例金融政策委員会）において、全会一致で Selic(政策金利)を 0.25%引き上げ、年率 12.25%とすることを決定しました。

今回の利上げは 4月20に続き今年4度目であり、合計の引き上げ幅は 1.50%になりました。

2011年4月失業率は前月より 0.1%低い 6.4%となり、4月としては市場最低を記録、労働市場の引き締めによる賃金上昇がインフレ圧力を高めることが懸念されていましたが、5月の IPCA（拡大消費者物価指数）前月比は+0.47%で、2010年9月の水準まで低下しました。

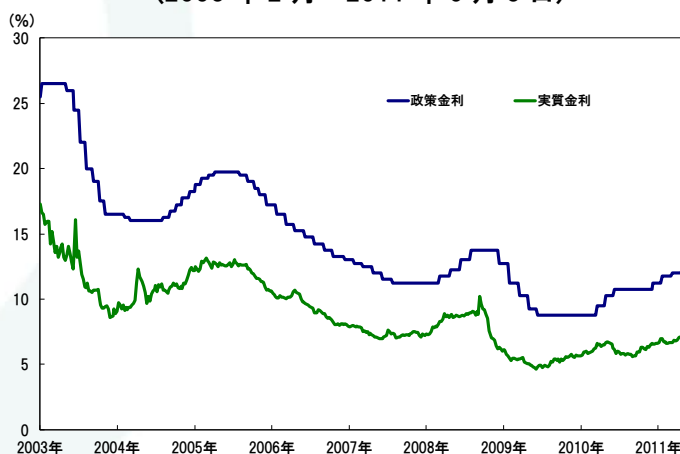
一方で、IPCA 前年同月比は+6.55%で、中銀目標中央値上限（4.5%±2.0%）を超えており、引き続き注意が必要であると考えられることから、ブラジル中央銀行はインフレを抑制し、持続可能な成長を確実にするため、今回の追加利上げを行ったと考えられ、金利引き上げ幅については、5月のインフレ率や（利上げの影響による）リアル高を勘案し、0.25%に留めたと考えられます。

ブラジルの 2011年4月鉱工業生産は、前月比-2.1%、前年同月比-1.3%（季節調整済）と予想外に下落したほか、4月製造業設備稼働率も3月の 82.4%を下回る 82.0%となりました。市場では、2011年成長率を 4.0%と予想しており（出所：ブラジル中央銀行公表 市場予想、2011年6月3日現在）、2010年の 7.5%成長と比較すると減速していることが窺えますが、第1四半期（1～3月期）GDPは 9,396億リアルで、前期比+1.3%成長、前年同期比+4.2%成長と、政府の目指す巡航速度の経済成長が続いていると考えられます。

今回の利上げは、市場ではほぼ織り込み済みで、為替市場では対ドルは 1米ドル=1.58リアル、対円は 1リアル=50.66円（出所：ロイター）と小幅な値動きに留まりました。また、政策金利の引き上げは、株式市場の引け後に発表されましたが、9日（現地）の株式・債券市場においても、今回の利上げに対する反応は限定的であると想定されます。

ブラジル経済は中長期的には成長が期待されますが、足元では、リアル高抑制に向けた追加政策が導入される可能性や海外要因等を勘案し、慎重に運用を行ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003年2月～2011年6月8日)



2011年6月8日
12.00% → 12.25%へ
0.25%の引き上げ

*政策金利：Selicを使用。
*実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出

本資料は、BNP パリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する情報を提供することを目的として、2011年6月9日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。